

## 都市環境デザイン会議 北陸ブロック総会

日 時：2015年6月6日（土）  
会 場：黒部市民会館 101 会議室（富山県黒部市）  
参加者：安宅恵、稲葉実、島津勝弘、大丸英博、武山良三、柳原恭順、上坂達朗、木谷弘司、小泉普、小間井孝吉、高田実、谷明彦、鏑隆弘、徳本修一、道地慶子、福塚正浩、水野一郎、山岸敬広、埴正浩、川上洋司、玉森慶三、峠岡伸行、鳥越友香里、中澤俊、宮里宜雅（会員 25 名）

ブロック総会は、会員 25 名のご参加をいただき、議事については滞りなく承認されました。

議事要旨は、以下のとおりです。

### <議事要旨>

- ・第 24 期活動報告・収支報告が承認されました。
- ・第 25 期活動計画・収支計画が承認されました。  
→次期開催地は、2015.10.31（土）～11.1（日）に新潟、H28 春は福井。  
→活動費は、正会員、準会員 [一般]、準会員 [学生]、特別会員の会費額と会員数による荷重配分方式により配分され、北陸ブロックは 25 万円。

- ・報告事項として、代表幹事の玉森慶三氏より、7 月の第 25 期定例総会及び 10 月の全国大会の開催日程について報告されました。
- ・定例総会及び全国大会には、北陸ブロックから参加費の支援をすることが承認されましたので、より多くの会員にご参加いただきたいと思います。
- ・JUDI プロジェクト「自転車の似合うまちづくり—2nd Stage—」の活動内容等、また、島由治氏、高山純一氏、坂本英之氏、飯田佑樹氏（準会員）の 4 名が入会されたことにより、北陸ブロック会員は、49 名（準会員 2 名、学生会員 2 名含む）となったことを報告しました。



ブロック総会の様子（正面右から、ブロック幹事 島津氏、事務局 埴氏）

## 都市環境デザイン会議 in 黒部 2015

日 時：2015年6月6日（土）  
会 場：黒部市民会館 101 会議室（富山県黒部市）  
参加者：会員 25 名、一般 13 名 計 38 名  
プログラム

- ◎講 演 水野 一郎氏（金沢工業大学教授）
- ◎会員発表
  - 富山県 上野 幸夫氏（職藝学院教授）
  - 石川県 木谷 弘司氏（金沢市都市整備局担当部長）
  - 福井県 川上 洋司氏（福井大学大学院教授）
- ◎全体ディスカッション  
コーディネーター 武山 良三氏（富山大学教授）

フォーラム「新幹線開業以降の駅づくり・まちづくり」は、JUDI 北陸メンバー 25 名に加え、一般参加者の 13 名、計 38 名にご参加いただきました。

まず、北陸ブロック幹事の島津勝弘氏の挨拶、司会・進行は柳原恭順氏が務めました。

### ■ 講演(概要)

#### ◆「北陸新幹線開業時の駅・駅周辺」

水野 一郎氏（金沢工業大学教授（JUDI 会員））

国レベルでは、国土戦略を伴わない新幹線建設。産業、情報、文化、地域社会などへの国家プロジェクトや投資は伴わない。地方レベルでは、国土高速鉄道ネットワークに組み込まれ、地方自らが開通に伴う振興策を計画、実施する。県庁所在都市の中核性向上し、中核性の高い州都が生まれる。

新幹線開通に期待するのは、観光ではなく、製造業、農林漁業、卸小売業など全てがこの機会に発進力を高めるべき。



水野一郎氏のご講演

富山と金沢は産業界が全然違う。争うよりも、二都物語、二眼レフ構造の州都になるとよい。

新幹線が来る、来たということと同時に、地域活性化、地方創生を含めて、何か大きな仕掛けを次の30年間で考えていく、新しい都市改造と新幹線が結び付くことが大きな課題である。

## ■ 発表(概要)

- ◆発表1「歴史と文化そして景観を大切にしまちづくり  
—旅の楽しみ方と感動は異文化に接した時—  
上野 幸夫氏 (職藝学院教授)

富山には高岡・富山・黒部の新幹線駅があり、各市町はできるだけ地域のカラー、個性を強く出す努力をしている。また、富山にはいろいろな文化、自然があるので、東京にはないそういう部分を表に出して、移住者に来てもらえるように各市町が頑張っており、国の補助制度もできてきたようである。

人口減少により、地域の文化も守れない状況になってきており、移住による人口増は大切である。

その地域の個性、特殊な文化というのは人の心をひきつけるが、高岡城のような歴史性を重視した復元や瑞龍寺のように周辺環境も含めて感動させる見せ方・演出が必要である。



上野幸夫氏のご発表

- ◆発表2「金沢駅周辺のまちづくり戦略  
～北陸新幹線開業を迎えて～  
木谷 弘司 氏  
(金沢市都市計画整備局担当部長 (JUDI 会員))

金沢駅周辺は、新幹線開業直前 2013 年に駅西広場が完成し、ハード整備はほぼ完了。開業 7～8 年前にはあまりなかったチェーン系ホテルや FORUS ビルの建設など、新幹線の潜在的な力を感じている。

新幹線開業を迎え、二次交通の強化としては様々なバスの運行や、「誰に聞かなくてもとりあえず行ける」案内板の設置と Face-to-Face の交通案内所の開設、さらに、駅全体を美術館化しようと、ホームやコンコースに金箔や友禅を仕込むことで、石川県の魅力に触れていただくなど、ハード、ソフトを含めていろいろやってきた。今後はさらに状況を見ながら、いろいろな形でこ入れしていきたい。



木谷弘司氏のご発表

- ◆発表3「北陸新幹線金沢開業、福井は今・・・」  
川上 洋司氏 (福井大学大学院教授 (JUDI 会員))

北陸新幹線のデザインは「和の未来」。「和をもって尊し」の和であり、それぞれの駅がある都市・地域が単独で競い合っ、どちらに引き込むかという競争することはやめようというメッセージが込められている。福井と金沢と富山の県庁所在地は距離的に近接しており、その間に素晴らしい小都市がある。これは北陸コナベーション (conurbation) といえるが、北陸の一体化に対して、3県で広域地方計画のスキームがあるなかでどうやっていくか。新幹線は地域全体に効果を付着する一番重要な要素。

一方で3県をつなぐ鉄道が引き算された状況。

今までの並行在来線とは違う形のスタンスで組み込んで、3県が大きなスキームで北陸連合的に、サービスの集積、規模のスケールメリットを出していくことが必要。



川上洋司氏のご発表

## ■ 全体ディスカッション

- パネリスト  
上野 幸夫氏・木谷 弘司氏・川上 洋司氏
- コーディネーター  
武山 良三氏 (富山大学教授 (JUDI 会員))
- コメンテーター  
水野 一郎氏 (金沢工業大学教授 (JUDI 会員))



全体ディスカッションの様子

全体ディスカッションは、ご発表いただいた3名をパネリストに、コメンテーターは水野先生、コーディネーターは武山良三先生が務められました。

### <全体ディスカッションでの主な意見>

(水野) 新幹線が通った時点で各都市は一段落。逆にこれからやらなければいけないことが見えてきた。地方創生、地方消滅も含め、北陸3県、石川・富山・福井は、消滅ではなくずっと成長する方法みたいなものを模索し開始するいい時期。



(上野) 北陸は裏日本だと思っていたが、北前船を中心として物流が盛んに行われていた。新幹線が通るだけでなく、かつての表日本時代の歴史性もあり、過去を振り返って未来を見つめる、その可能性を十分秘めていることも発信していけばよい。

(木谷) アフター新幹線について、何を求めていくのか。今までのコアなファンをなくさず、守ってきた本物、本当に質の高いものをいかに維持していくか。新幹線の勢いがある分だけ、その勢いに流されないよう、しっかり配慮しなければいけない。

(川上) 隣接市町といかに連携し合いながら、強みを発揮していくかというフェーズを持つ。まちづくりにおいては、「和して同ぜず」。自分たちの町だという個性を持ち、どう和して、連携していくかというステージにいかない限り、地方創生はない。

(水野) 住み良さランキングとか幸福度ランキングで北陸 3 県はいつも上位にあり、中でも福井は最高で、住み良さでは日本で一番とっていいほどの内容である。住み良さやここなら移り住んでもいいという誘いはいっぱいできる。

(川上) 自動車の利用依存度は全国有数だが、鉄軌道もストックとしてある。鉄軌道、公共交通系では、日本でも先進的。一方で都市間は、JR 線が担っていたものが引き算された。そこをどうするかに 3 県で取り組まないといけない。

(木谷) 町家は大切な資源だが、耐震化、災害安全性などの点では、裏腹などところも持っている中で、いかに残していくかということがすごく大きなテーマ。持ち家志向が強い延長線上に、町家などの流通自体が思ったようにうまく機能しない。

(水野) 法律上、都心の防火、準防火地域で、町家の木造を改築すると、不燃化しなければならない。そこで木造特区を作ろうとか、木造都市宣言をして特別に認定されるような仕組みをつくろうと提案している。次のテーマの一つは木造都市。うまく動き出せば日本で唯一、木造が残る都市になりうる。

(堀口氏) 一昨年、京都市制定した条例では、木造家屋の改修時に、どうしても消防法をクリアできないので、ある部分については消防計画を、その建物が作る。建物独自の消防計画、要するにオペレーションにより技術的にクリアできる部分を作っている。

(水野) 北陸には、源流から河口まで同じ市域に山岳地域から中山間地域、里山、平地、海浜、海、それを全部持っている都市が多く、それを大事にす

る環境都市みたいな話。もう一つは、都市の中にユニバーサルデザイン。巨大な都市ではできにくいのが、北陸だとかなりできそうである。そのことが、富山の山と海による産業構成、石川の歴史による文化や歴史の積み重ね、福井の住み良さや出生率日本一など、住み良さからくるものに加わっていくとよい。



左からパネリストの上野先生、木谷氏、川上先生

(武山先生まとめ) キーワードはやはり地方創生。単に連携するところから、雇用を創出するところを含めてやる。住みやすさをベースに、この地域にはポテンシャルがある。特に、自然をベースにした文化。文化が産業や経済をけん引する構造のモデルを、地域でまとまって発信していく。それによって地方創生に貢献していくことが、今求められているのではないか。そういう意味で、非常に環境の似た北陸 3 県がいろいろ競合し、自分たちなりのノウハウを出し合いながら、一つの形にしていけたらよい。



左からコーディネーターの武山先生、コメンテーター水野先生

## ■松桜閣・庭園見学会

復元された数寄屋建築の松桜閣と庭園は、上野幸夫先生のご説明に加え、五感でもって体感しました。



松桜閣・庭園を見学する様子

## ■ 懇親会

会場：宇奈月温泉「桃源」

参加者：会員 24 名、一般 3 名

恒例の懇親会は、JUDI 北陸メンバー24 名と関西ブロックの堀口浩司氏にもご参加いただき、今回は宇奈月温泉「桃源」で、美味しいお酒と料理を楽しみながら大いに盛り上がりました。



稲葉さんの乾杯に大丸先生の締め、二次会は玉森氏が乾杯

## ■ 見学会(その2)

日 時：6月7日(日) 9:30~13:30

場 所：富山県入善町、朝日町

参加者：稲葉実、大丸英博、武山良三、柳原恭順、上坂達朗、木谷弘司、小泉普、高田実、谷明彦、鰐隆弘、徳本修一、道地慶子、福塚正浩、水野一郎、山岸敬広、埴正浩、川上洋司、玉森慶三、中澤俊、宮里宜雅

2 日目は、<sup>にぎやま</sup>下山芸術の森発電所美術館、朝日町図書館・明治記念館、入善町健康交流プラザ・サンウエルを見学しました。

入善町の下山芸術の森発電所美術館と朝日町の朝日町図書館と移築・改修された明治記念館は、稲葉氏にご案内いただきました。



スペインの設計者エリアス・トレス氏の設計のゲート棟と美術館入口



明治記念館の内部をご説明いただいている様子

入善町健康交流プラザ・サンウエルは、水野先生に、施設内容や設計主旨をご説明いただきました。「サンウエル」とは、風、水、光の3つの井戸(Well)と読み、3本の塔とそれらを結ぶ棟でつくる外観は、手を組んで共に喜び合う健康町民の姿だそうです。



サンウエルの外観



昼食後の集合写真

## ●北陸ブロックの今後の活動予定

### ◇都市環境デザイン会議 第25期定例総会 in 大阪

日 時：2015年7月25日(土) 14時00分～  
会 場：大阪市北浜ビジネス会館

### ◇都市環境デザイン会議 全国大会 in 石巻

日 時：2015年10月2日(金)～4(日)  
会 場：宮城県石巻市

### ◇都市環境デザイン会議 in 新潟

日 時：2015年10月31日(土)～11月1日(日)  
会 場：新潟県内

### ◇都市環境デザイン会議 in 福井

日 時：2016年春頃 会 場：福井県

## — 編集後記 —

今回の JUDI in 黒部開催にあたりましては、富山県の会員の皆様には大変ご尽力いただき、誠にありがとうございました。ご参加いただいた皆様も、お疲れ様でした。大盛会となりましたこと、重ねて御礼申し上げます。

今回は、新幹線開業から2ヶ月あまりが経過し、今後は平成34年度の敦賀開業に向けて福井先行開業についても議論が始まっている状況の中で、駅づくり・まちづくりについて様々な視点から議論していただけたことと思います。

さて、次回は10月31日(土)～11月1日(日)、新潟県内においての開催となります。詳細が決まり次第ご案内いたしますので、奮ってご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

## 【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹 事 ● 島津勝弘 (島津環境グラフィックス)

事務局 ● 埴 正浩・高永智恵 (株)日本海コンサルタント)

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ

<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ

<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>